

○議長（白石 幸喜君） 1 番、上米良重光君の質問を許します。

○議員（1 番 上米良 重光君） 議長。

○議長（白石 幸喜君） 1 番、上米良重光君。

○議員（1 番 上米良 重光君） 事前通告に従いまして、村長に質問させていただきます。

森林作業隊の設立について質問いたします。

全国的に人手不足が続いている中、本村も例外ではありません。戦後、拡大造林の推進により植栽された人工林は1万1,386haで、50年生以上の杉・桧が60%を超え、年間約60haが伐採されております。造林が約40ha、下刈が約200haが実施されておりますけど、現在の作業班の状況は、造林班が8班の16人、林産班が自伐林産を含め6班の17人まで減少しているのが現状です。作業班の減少により、伐採・造林・下刈とも村外業者が請負し、相当な金額が流出しております。このままでは高齢化になり、切る人・植える人も減少し、林業経営が困難な問題が発生いたします。

先進地である諸塚村は平成2年5月に国土保全森林作業隊を発足し、平成7年3月に財団法人ウッドピア諸塚を設立し、現在一般社団法人となっております。設立当時は諸塚村が10億円、森林組合が1,000万、農協が300万の基金を設立し運営されております。概要としては、森林環境部門・畜産振興部門・資源開発部門・茶業振興部門に分かれており、森林環境部門では森林整備・素材生産で10名の雇用がなされており、平均年齢が47歳になっております。組織全体では、事務局を含め31人の雇用がなされており、本村も作業班の確保するためには、全国に募集をかけていき、特に林業の仕事は経験を積まないと危険でもあり、国の制度事業を活用しながら資格を取得し、経験を積んでいくのが1番いいと思っております。

財源としては基金を積立て、森林環境譲与税、地域おこし協力隊を活用しながら設立を図ることで、人口減少対策につながると考えるが、村長の考えを伺いたいと思います。

○村長（黒木 竜二君） 議長。

○議長（白石 幸喜君） 村長。

○村長（黒木 竜二君） 1 番、上米良重光議員から質問ありました森林作業隊の設立についてお答えをいたします。

聞き取り調査による元の就業林業就業者は38名で、平均年齢が54.68歳と高齢化が進んでいる状況でございます。

本村の森林経営の特徴として、個々の森林所有面積が広いため、林業への関心が高く、再造林率が高い地域であります。また地籍調査が令和6年度に完了したことにより、所有森林の境界が明確なことから、スムーズに伐採に取り組めます。本村は林業経営に向いている地域でもございます。

一方で村内林業従事者の高齢化及び村内者の実行割合が減少しております。議員の質問のございました森林作業隊の設立についてですが、昨今の本村における林業従事者等の現状を鑑みまして、まずは新たな林業従事者を受入れ、育てる取組が必要になるかと思えます。

新たな組織づくりにつきましては、先進地研修等を行い、課題や現状の意見交換に行ったところでございます。数年間森林作業隊の設立につきまして、可能性を模索してまいりましたが、コスト面や運営方法などを総合的に検討した場合、今までの経験や環境が整った林業事業体を育成支援する方法を検討したいと思えます。具体的な対策としましては、令和7年度当初予算において、地域おこし協力隊制度を活用した新たな林業従事者の確保に向けた取組を始めます。

年間1名から2名程度をホームページなどで公募し、お試し滞在住宅を活用して西米良村を知ってもらう機会を設けます。希望者と村が合意した後に地域おこし協力隊員を会計年度任用職員として雇用し、1年～2年の間で林業従事者に必要な資格取得を目指します。資格取得以外の期間は、下刈りや植付けなどの研修は当然のことながら、ドローン苗木運搬研修や作業道作設研修、シイタケ栽培研修など幅広く村内の林業事業体等に研修を依頼し、実際の仕事を通じて指導し、知識や技術などを身につけていければと思います。また、林業関係団体と交流を図り、一員となることで働きやすい環境づくりを目指します。地域おこし協力隊任期後は個人の考えを尊重し、村内への林業事業体等に就職を促します。住むところ・働くところをセットで準備し、新たな移住定住者の受皿として関係機関と連携を図り、移住定住促進を図ります。そのためにも、林業という仕事の魅力度を高めたいと思えます。

地域おこし協力隊のサポート、森林環境譲与税の活用やさらなる森林整備等の推進を目的として、専門的な知識を持った地域林政アドバイザーを採用します。このこと

によって、地域おこし協力隊員へ技術的な指導や支援等がなされると見込んでおります。

令和6年度より県や森林組合、村で毎月開催している林政部会において、担い手確保へ向けて課題や施策など、協議を重ねていきます。関係課の職員が協議に加わり、多様な意見交換を実施しています。

今後も県や関係機関と連携を図りながら、林業従事者や新規担い手への支援を継続してまいります。

以上申し上げまして、上米良重光議員の質問に対する答弁とさせていただきます。

○議員（1番 上米良 重光君） 議長。

○議長（白石 幸喜君） 1番、上米良重光君。

○議員（1番 上米良 重光君） 前向きな話だったんですけど、協力隊ですね、採用してもですね、経験を積むということで話がありましたけど、私の考えとしてはですね、それから各団体の作業班に行くってのはなかなか厳しいだと考えております。やっぱり人付き合いがありますので、できたら私の考えですけど、米良の庄の中ですね、林業部門をつくって、そこに組織として5人なり10人ぐらいを作ってそこからできましたら、経験を積んでですね、自分で自立するような形を持っていたほうが、実際に作業班として残ると考えておりますけど、村長の考えを伺いたいと思います。

○村長（黒木 竜二君） 議長。

○議長（白石 幸喜君） 村長。

○村長（黒木 竜二君） 今重光議員のおっしゃられた米良の庄を箱にして林業従事者をということでございますけれども、昨年度様々な他の議員の皆様方から米良の庄の経営状態であるとか、今観光、コロナ禍が終わりまして、観光の整備を今図っているところなんですけれども、その中で今の米良の庄の体力を考えてみますと現在のには厳しい状況かなと思って今観光施設ができて体制づくりを今まさにやっているところなんですけれども、そこからまたそういう形になりますと大変な負担がございます。

ここもまずは何年、その問題も含めながら相当の時間数、年数がかかろうかと思っておりますのでそこも踏まえながら様々な検討を行ってまいりたいと思います。

○議員（1番 上米良 重光君） 議長。

○議長（白石 幸喜君） 1番、上米良重光君。

○議員（1番 上米良 重光君） なかなか難しいと考えております。

それからなるだけですね、作業班を減少しないためにもですね、そういうふうな組織づくりも考えていただきたいと思います。

これで答弁を終わらせていただきたいと思います。